

清松の杜

第2号

平成31年3月21日発行
発行：放生津八幡宮社務所
発行責任者：責任役員会

奉祝

今上陛下の御聖寿ならびに徳仁皇太子殿下の御即位を
心よりお祝い申し上げます

今上陛下御製（平成23年3月）

被災地に 寒き日のまた巡り来て 心にかかる仮住まいの人



今日、全国で行われている曳山の起源が、かつて、大嘗祭の時に飾られていた標山（しめやま）であることを知ることができました。曳山の起源が大嘗祭であることは大変意義深いことであり、即位礼ならびに大嘗祭を心よりお祝い申し上げたいと存じます。（宮司談）

昭和天皇御製（昭和20年8月）

爆撃に 斃れゆく民の上を思い 戦さ止めけり身はいかならむとも

今上陛下御製（平成26年8月 長崎にて）

爆心地の碑に 白菊を供へたり 忘れざらめや 往にし彼の目を

—世界の平和は、教育から—

放生津八幡宮の御神札初穂料の一部を、ユネスコ協会を通して、シリア難民の子どもたちへの教育支援に役立てております。（宮司談）

奉 祝

祖霊社御祭神：大伴宿禰家持卿ご生誕1,300年奉祝祭斎行ならびに奉祝行事奉納（平成30年8月25日）

平成30年（2018）は、当宮創建の祖神として祀られてきた祖霊社の御祭神、大伴宿禰家持卿のご生誕1,300年に当たり、祖霊社祭に併せて生誕1,300年奉祝祭を斎行しました。獅子舞や歌曲など奉祝行事も奉納され、家持卿の御功績を称えました。



祖霊社祭（舞奉納）



第八回 詩歌の会表彰式



高野智世氏フルート演奏



澤武紀行氏伴奏による中学校生徒合唱



東町本町獅子舞保存会奉納の獅子舞



澤武紀行氏作曲による歌曲「家持紀行」

【お知らせ1】奉仕会会員募集

放生津八幡宮の境内清掃や、しめ縄づくり等の作業を通して奉仕活動を行います。

【連絡先】放生津八幡宮社務所 電話：0766-84-3449 F A X：0766-75-1254

H P：houjyoudu.com 放生津八幡宮

不思議物語

平成28年4月下旬、若い女性が訪ねて来られ、「この時期でも、八幡宮の御札はありますか。」と聞かれました。何か事情がありそうな雰囲気だったので尋ねると、「4月に就職し、富山市内のアパートでひとり暮らしを始めたのですが、アパート前の道を挟んで墓地があり…」そこで言葉が途切れました。およそのことは推察できたので、話題を変えて、御札のお祀りの仕方を説明し、簡易神棚を差し上げる旨を伝え、明るい表情に変わりました。帰り際に、「何か気がかりな事が続けばご連絡下さい」と伝え、軽く会釈をして帰られました。その後連絡がないのは、よい知らせだと思っています。(宮司談)

秋季例大祭

9月30日の魂迎え式に始まり、10月1日の神輿渡幸祭・曳山供奉、2日の例大祭式並びに放生会式、築山祭、3日の奉賽祭に至るまで、滞りなく祭典が執り行われました。

今年は、荒屋東部、江柱、南長徳寺、東町東部、四日曾根、神保寺、中曾根地区の児童・生徒により舞が奉納されました。猛暑の夏から練習を始め、当日は、すばらしい舞を奉納していただきました。



例大祭参進



乙女の舞奉納



浦安の舞奉納



放生の舞奉納



文化財保護法に基づく防火訓練の様子



大祓式 茅の輪くぐりの様子

【お知らせ2】 篤志寄付のお願い

放生津八幡宮の秋季例大祭に、巡行する御神輿の車輪が老朽化しており、このまま放置すると、巡行中に、御神輿の重量で破損する恐れが指摘されています。つきましては、住民の皆様のご寄付を賜りたくお願い申し上げる次第です。（1口2,000円 以上）

〔納付について〕

- (1) 各町の総代さんを通して御納め下さい。
- (2) 直接、放生津八幡宮社務所までご持参下さい。
- (3) 下記口座へお振り込み下さい。（振り込み手数料はご負担下さい。）

○ゆうちょ銀行 店番328（普通）

□ 座 名 放生津八幡宮
記号13270 番号19140001

○北陸銀行 新湊支店 店番210（普通）

□ 座 名 放生津八幡宮
口座番号 6045487

○新湊信用金庫 本店 店番001（普通）

□ 座 名 (宗) 放生津八幡宮特別会計 代表役員 大伴 泰史
口座番号 0211284

○富山第一銀行 新湊支店 店番051（普通）

□ 座 名 放生津八幡宮 代表役員 大伴 泰史
口座番号 368079

○北國銀行 新湊支店 店番403（普通）

□ 座 名 放生津八幡宮
口座番号 14071

放生津八幡宮に関するQ&A

Q 放生津八幡宮は、いつ頃から放生津八幡宮と呼ばれるようになったのですか。

A 放生津八幡宮は、当初は奈呉八幡宮と呼ばれていました。鎌倉時代には、源頼朝に倣い、一郷一社の八幡宮が慣わしになっていたと言われます。江戸時代の享保2年（1717）に、八幡宮は寄り廻り波で大破し、再建が計画されました。その時、放生津町の町年寄と、放生津新町、三日曾根村、四日曾根村、長徳寺村、法土寺村、荒屋村の肝煎らが、再建について協議しています。八幡宮への崇敬者が広い範囲に在住していたことが窺えます。これらの範囲がかつての一郷と考えられ、範囲内に八幡宮は当宮のみで、八幡宮とだけ記載されています。石黒信由が文政6年（1823）に製作した地図では、三ヶ新村までが放生津の範囲で、明治4年（1871）に新湊町が誕生する頃、六渡寺村も行政区として放生津に加えられます。

明治5年（1872）に七尾県第22区の郷社に指定され、郷社八幡宮が正式社号になりましたが、その範囲内には八幡宮は当宮のみであり、八幡宮で通用していたようです。ところで、江戸時代の伏木の古文書には、『二上山のふもとの高台から、放生津八幡宮の森が見える』との記録があります。また、天明3年（1783）に、高木村の石黒信由が和算の絵馬を奉納した時、放生津八幡社への奉納とあります。このことから他の地域では放生津八幡宮と通称されていた事が窺えます。北海道で利尻漁業を立ち上げた松谷長吉氏が、明治37年（1904）に奉納した鳥居前の社標にも放生津八幡宮と刻まれています。

明治32年（1899）に、富山県の県社に昇格し、県社八幡宮が正式社号になりました。当時、神職が意見書を添えて、社号名に放生津を加えるように富山県に申請書を提出しましたが、却下されました。

ところが、元の仁和寺第30世門跡小松宮彰仁親王殿下が謹書され、明治35年（1902）に当宮へ奉納された社号には放生津八幡宮と記載されており、社号に放生津を加える声が再び高まり、明治42年（1909）に、再度申請しています。富山県は、明治44年（1911）にこれを認め、県社放生津八幡宮が正式な社号になりました。昭和20年（1945）には、県社の社格は無くなり、放生津八幡宮が正式な社号になりました。

写真で綴る1年のできごと



御神木の伐採前のお祓い



御神木のしめ縄付け替え



藁すぐりのようす



伐採作業のようす



例大祭準備



築山の客人の製作



魂迎え式



神輿渡幸祭（出御）のようす



台風23号の影響で、来名社鳥居倒壊



新築の来名戸社鳥居取り付け作業



来名戸社鳥居竣工式



ステーションハウス&ブリッジパー竣工式



中国人留学生の訪問・見学
(遼寧工業大学、渤海大学の学生)



雪囲い作業



長提灯の奉納・取り付け作業



追儼の大祓の準備

募集

平成30年1月の積雪で、拝殿前の御神木の松が折れました。総代方から薪として処分するのは恐ろしいという声があり、現在乾燥させてあります。乾燥には5～6年がかかるのですが、木彫りにしてはどうかという案があり、木彫りに相応しい題材案を募集します。また、制作費を寄附してもよいという御方があればお申し出下さい。

【注記】本誌は、八幡宮の様子を知りたいという住民の皆様の要望に応じて発行しています。

本誌は、責任役員の氏子幣帛料を制作費に充てています。